

## 外国語教育を目的としたメディアコンテンツ制作の 方法論の歴史的変遷

Historical changes of the methodology of media content production  
for the purpose of foreign language education

今中 舞衣子 (IMANAKA Maiko)

本課題は、NHK テレビフランス語教育番組を時系列的に整理・分析することにより、外国語教育を目的としたメディアコンテンツ制作における方法論の歴史的変遷を研究するものである。今年度は特に、教授学習の媒介についての歴史的変遷を見ていく上で重要な要素と考えられる、出演者の役割に着目した映像分析を行った。

結果として、①日本人講師は番組のメイン出演者として教えの主体を担っていた時代から、必要とされる場面のみアドバイザーへと少しずつその役割を他の出演者に譲ってきたこと、②ネイティブスピーカーはそれと反比例するように、発音・会話のモデルを担う「ゲスト」という周辺的な立ち位置から徐々に番組への参加度を高めていき、さらには自らが日本語を学び使用する学習者として視聴者と共に学ぶ存在となっていくこと、③年代的に遅れて登場してきたタレントは、日本人講師、あるいはネイティブスピーカーの教えの対象としてのフランス語初心者だった時代から、自らフランス語との関係・経験を語り、能動的・主体的に行動する学習者のモデルという役割を担うようになってきたことが明らかとなった。

以上のような出演者の役割の変遷は、近年の外国語教育研究が、「何を学ぶか」というコンテンツから、「何ができるか」というコンピテンシーへ、そして「どうあるか」というアイデンティティの問題へと移り変わってきていることを反映していると考えられる。

本研究は現時点では、分析の対象を出演者の役割に限定した仮説生成的なアプローチにとどまるものである。今後は学習を補助するメディアとしての NHK テキストの内容分析を通じ、研究成果をフランス語教育のためのメディアコンテンツ制作の方法論に直接関連づけられるようなアプローチをとりたいと考えている。

### 研究成果

【論文】今中舞衣子（2018）「NHK テレビフランス語教育番組における出演者の役割の歴史的変遷」 *Etudes didactiques du FLE au Japon* 27, Péka, pp. 76-90.

【口頭発表】IMANAKA Maiko (2017) 《Comment favoriser les interactions avec des apprenants devant un écran - Analyse d' une émission télévisée japonaise pour apprendre le français》 International Conference on Second Language Pedagogies. McGill University, Canada.